

平成19年度に見込まれた 収支不足額は解消！



平成19年度の財源不足として試算された約3億1千500万円に対し、取り組みによる財政効果額が3億4千187万円あり、最低限度の目標を達成したわけだ。

少し安心したけれど、平成20年度以降に比べると、平成19年度の取り組みの効果額は少ないと思うな…。



今回の中期財政見直しを作成したのは、昨年8月だから、その時点で既に着手している取り組みの効果額は収支に反映してあるため、金額的にはどうしても少なくなるんだ。



それから、もう一点、疑問なのは、今回の取り組みによる効果額以上に平成20年度への繰り越した額が多いだろ、どうして。



もともと、決算と予算には、金額に差が生じる仕組みになっているんだ。歳入は歳出の財源に充てるものだから、財源不足が生じることのないように堅く見積もるし、一方歳出は事業費や市民サービスに不足が出ないように、ある程度変動を見込んで多めに見積もることに

なる。

もつとも、あまりに繰越金が多過ぎると、予算の見積もりがあまりと市民の皆さんに怒られてしまうね。



『財政』って、数字だらけで、それに聞き慣れない専門用語がやけに多くて難しいなあ…。けれども、少し分かってきたような気がするよ。家に帰ったら、取りあえず、平成19年度の収支不足分は解消できたと話して、妻や両親を安心させてやろう。



広報のぼりべつでもできるだけ分かりやすい『財政公表』の特集を心掛けていくけれど、財政制度がとて複雑でいろいろな仕組みを専門用語で定義しているから、注釈を加えても、その注釈にもまた専門用語が出てきてしまう…。まるで、『入れ子』のようになんだ。

市民と行政による 協働のまちづくり



そういえば、昨年君と会ったとき、「登別のまちづくりのため、自分には言っただろう、覚えているかな。もちろん、覚えているよ。



それで考えてみて、何

か見つけたのかい。



今年から、息子の小学校のPTA役員と地元町内会の会計を担当しているんだよ。

学校のPTAは、役員のみ手が少なく、強くお願いされたし、町内会の役員だつて後継者がいなくて、多くの町内会で高齢化しているみたい。「お手伝い程度なら」って答えたよ。それでも、会計のほかに会議や行事は多いし、けっこう忙しいんだ。まちづくりも大変だよ。



少子・高齢社会、高度情報化、国際化への対応から暮らしの安全、生活相談まで、いま行政に求められるニーズはとても多様化しているから、きめの細やかなサービスで応えるには行政だけの力では難しくなっているんだ。

これからのまちづくりは、市民と行政が協働して汗を流しながら、一歩ずつ進めていかなくていけないだよ。

町内会は、クリーン作戦、老人憩の家や公園、街路植樹ますの花植え、市の広報紙の配布など、暮らしの身近なところでさまざまな活躍をしている。だから、町内会の活動や行事などに、市民のみなさんには、君のように積極的に参

加してほしいと願っているよ。

僕らも暮らしの中で市民と一緒に頑張ってまちづくりに励むし、できるだけ市民サービスを低下させないようにして、財政を立て直すよう精一杯、頑張るよ。



A君は公務員なのだから、その気持ちを忘れな

◎市は、まちの財政に関わるさまざまな情報を市のホームページで公開しています。

▼公表の主な内容 予算・決算の状況、中期財政見直し、土地開発公社の財務諸表など

▼市ホームページアドレス
<http://www.city.noboribetsu.lg.jp>

トップページ↓市役所各グループのページ(右下) ↓財政グループと、お進みください。



この特集に関する
お問い合わせは
財政グループ

☎05 1331
FAX 05 1108

Eメール：
fin@city.
noboribetsu.
lg.jp